

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

唱 歌

幼児にうたはれてこそ言の葉のしらべいよくたかくこそあれ

御題ミいひ、御詠ミいひ、實景の御製ミ拜し奉る。幼児たち整列して、小さい口をあけてうたふ姿ミ、それを、長くも御ほゝえませ給ふて、御覽じあせられる貴さを、恐れ多いこゝまながら、目の前に想ひ描く。

幼児の唱歌は、決して巧みではない。なかには音階の正しくは揃ひかねるのさへもある。しかも、その稚拙に、つくろはざる美しき響をもつのが常である。殊に、その歌が幼児のこゝろのまごきを敍したものである時、その曲が幼児のこゝろのしらべを傳へたものである時、幼児のみが最よくその點のしらべを高くうたふ。たゞ、それが誰れにでも聞きされるこゝろのものではない。歌のこゝろ、曲のこゝろ、そして、幼児のこゝろの、しつかりミ聞き分けられる耳によつてのみ出来る。しかも亦、歌のこゝろも、曲のこゝろも、幼児のこゝろも、たゞこれ、そのいつれもが、まごころにおいて一つになり、まごころによつてこそ聞きさられる。

まごころに恐懼にたへない言ひやうではあるが、「大帝の御前に唱歌をうたふ幼児達」の畫面に對して、わたくしきもは、たゞひたすらに、をさなごのこゝろに觸れさせ給ふ。世に最も偉いなるみこゝろの有り難さにうたれるのである。更にまた、眞にすななるまごころによつてのみ、數多き御製の御言の葉を謹誦し得るこゝまを、伏し學ぶのである。

(倉橋惣三謹誦)